東郷の歴史　シリーズ 14

「召零松」と名古屋城

伝承

慶長19年(1614)名古屋城造営中に初代尾張藩主徳川義直公が大坂冬の陣へ出陣し、城の工事が中断していました。

このとき城代職高木志摩は、石垣の上に樹木がなく、城内の防備や兵力が外から丸見えであることを危惧し、本丸・深井丸及び土居・石垣の上までの一帯に松の植え込みを決断しました。

諸輪村に数多くの良い松があることがわかり、多くの松が、諸輪の山から掘りとって献上されましたが、その数は数百本と伝えられています。

その際、運搬荷造り用の籠から零れ落ちて根付いたのが「召零松」と言われています。

※（諸輪村は、徳川義直公の付け家老渡辺半蔵守綱の給地となっています。）

「召零松」があった場所

東郷町大字諸輪字上鉾 12-176
（愛知池堤防下の旧道沿い）

「力強さ」を感じる容姿

樹高7.1メートル。地上1mでの主幹の幹回りが3メートル。枝張りは東西25メートル、南北17メートル。主幹が途中で3つの太い幹に分かれる蟠幹の黒松で威風堂々の容姿は、愛知池堤防を散策する人々の目を惹きつけていた。

位置図

昭和53年(1978)5月に町の文化財として天然記念物に指定されましたが、この頃、松くい虫が大量に発生し、松の枯れ死被害が全国的に広がっていました。

「召零松」も生育に影響を受け、殺虫や栄養補給などの処置を試みられましたが、遂に昭和55年11月に枯れ死し、翌年5月 20 日に切断撤去されました。

町では、幹の輪切りを名古屋城造営時の松献納の伝承を物語る現物資料として保存し、後世に残すべく、町の郷土資料館に収蔵しました。このとき幹の内部には白アリが大量に生息していたことから、「召零松」の枯れ死の原因には、白アリによる浸食も大きな要因の一つであったことが確認されました。

伝承の絆 “昭和の松献上”

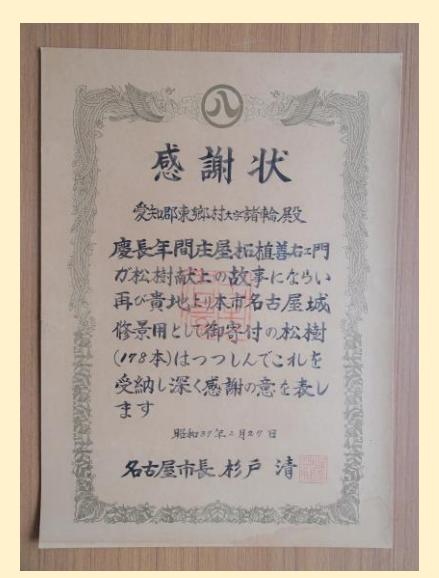
昭和50年(1975)に諸輪区発行の「諸輪の歴史」には、「松献上」に関する諸輪村と名古屋城との繋がりについて記述されています。概ね次のような経緯であり、名古屋城との伝承の絆が400年の時を経て永く続いていることや名古屋城が東郷の歴史と深い関わりのあることを知ることができます。

「諸輪の歴史」(373 頁～374 頁)記載の主な内容

昭和37年、名古屋城管理事務所から古記録の由緒に従って、東郷村役場を通じて諸輪区に献木の依頼がありました。

諸輪区では区議会を開いて、区民の賛同を得て、共有山林から小松(高さ1m～2m)170本を区民に割当て、堀取って昭和37年2月27日、自動車25台に分乗し名古屋城へ運んでいます。

道中、名古屋市内では数10台の白バイの護衛によって城内に到着。城内では出迎えを受け、盛大な献納式が行われ、諸輪区民によって松の植え込みが行われた。「名古屋城の史蹟に右のように記載されている。」と書かれています。



感謝状

愛知郡東郷村大字諸輪殿

慶長年間庄屋柘植善右ェ門が松樹献上の故事にならい再び貴地より本市名古屋城修景用として御寄付の松樹(178本)はつつしんでこれを受納し深く感謝の意を表します

昭和37年2月27日

名古屋市長 杉戸 清

名古屋市からの感謝状

昭和37年の献木への感謝として、当時の名古屋市長杉戸清氏から同日付けで感謝状が、諸輪区に贈られています。

上部に名古屋市の「マル八」章のある感謝状は、縦42.5 cm・横 30.5 cmのサイズで横書き。

感謝状は、諸輪区事務所で大切に保管されています。

感謝状の内容

感謝状

愛知郡東郷村大字諸輪殿

慶長年間庄屋柘植善右ェ門

が松樹献上の故事にならい

再び貴地より本市名古屋城

修景用として御寄付の松樹

(178本)はつつしんでこれを

受納し深く感謝の意を表し

ます。

昭和 37 年 2 月 27 日

名古屋市長 杉戸 清

[参考文献等]

「町誌第2巻」103 頁、
「諸輪の歴史」 373 頁～375 頁、
「東郷の郷土資料Ⅰ」28 頁、
「もっこく第3号」67 頁、
新聞記事「名古屋城物語㉛」、
「盆栽世界(1976 年 10 月号)」
37 頁

「名古屋城の史蹟」に記載

諸輪より名古屋城へ献木

期日　昭和37年2月27日

樹種　松170本余

5本　柘植卓男(初代松献納庄屋善右ェ門の末孫)
2本　野々山佃(東郷村村長)
130本　各分区組員一同
6本　諸輪区長　柘植昇太郎
同　副区長　石川　正
同　区会議長　小島季正
同　副議長　水野芳春
同　議員　近藤伝雄
同　山田守國
同　近藤　博
同　近藤治義
同　柘植　鈔
同　近藤吉隆
同　加藤　武
同　村会議員　真野禮三
同　柘植鎧一
同　柘植史紀
同　近藤重孝
同　西山正孝
2本　諸輪出身　近藤増一
役場職員　長谷川釟吉
近藤　正
浅井秀男
水野錦哉
近藤　功
近藤幹治
真野建一

R3 年 12 月作成、R6.12.20 修正